

これからの緑の取組[2024-2028](素案) 及び 横浜都市農業推進プラン 2024-2028(素案) について



本日の説明内容

1. 全体	
1-1 これまでの経過	P 3
1-2 計画の位置づけ・関連計画	P 4
1-3 緑がもつ多様な役割と機能	P 5
2. これからの緑の取組 [2024-2028] (素案)	
2-1 方向性	P 7
2-2 体系	P 8
2-3 取組の進め方	P 9
2-4 取組の主な内容 <柱 1 > ・ <柱 2 > ・ <柱 3 > ・ <広報 >	P10~17
2-5 総事業費	P17
3. 横浜都市農業推進プラン 2024-2028 (素案)	
3-1 方向性	P19
3-2 体系	P20
3-3 取組の主な内容 <柱 1 > <柱 2 >	P21~24

1-1 これまでの経過

2022年11月 第30回 環境創造審議会

2022年12月
これからの緑の取組 [2024-2028]
(素案) 策定

2022年12月-1月
市民意見募集の実施

2023年2月
横浜都市農業推進プラン 2024-2028
(素案) 策定

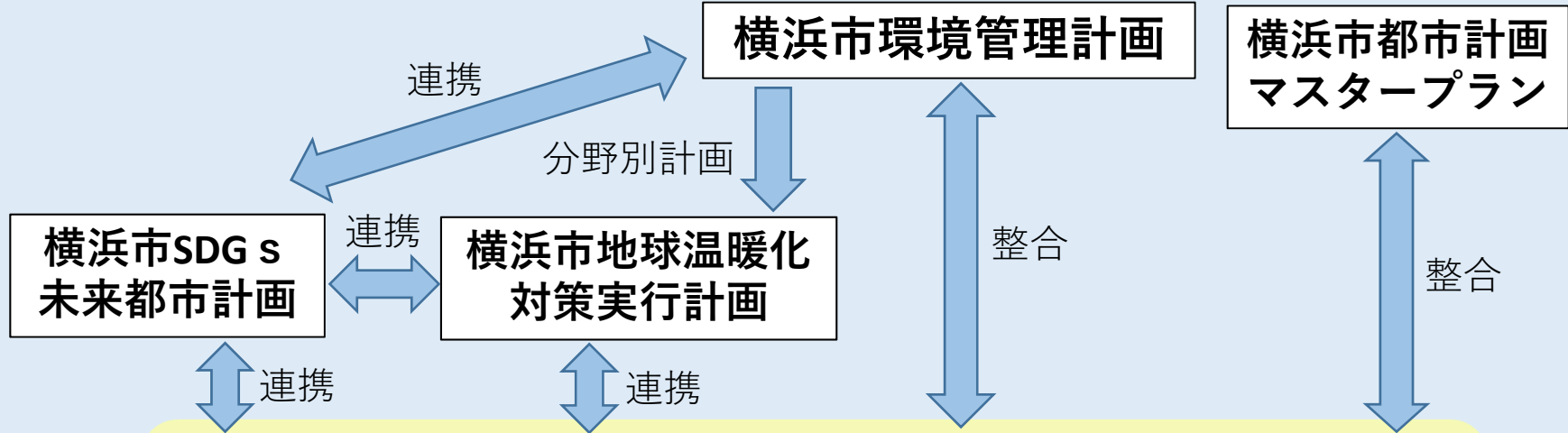
本日

2023年3月 第31回 環境創造審議会
素案 (報告)

1-2 計画の位置づけ・関連計画

横浜市基本構想（長期ビジョン）

横浜市中期計画 2022-2025



横浜市水と緑の基本計画

具体的な取組

これからの緑の取組

- 柱1 森を育む
 - 柱2 農を感じる場をつくる
 - 柱3 実感できる緑や花をつくる
- 効果的な広報の展開

横浜都市農業推進プラン

- 柱1 持続できる都市農業の推進
- 柱2 農を感じる場をつくる

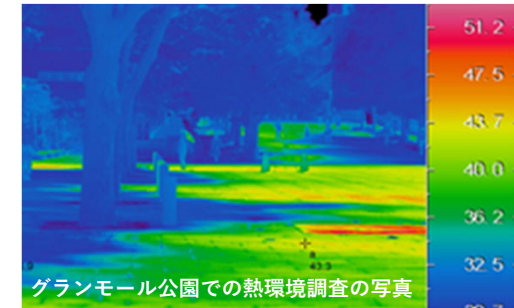
1-3 緑がもつ多様な役割と機能



生物多様性保全機能



貯留・かん養機能



環境保全機能



防災・減災機能



レクリエーション・
健康増進・癒し機能



景観形成機能



コミュニティ形成機能



街の魅力向上
・賑わい創出機能



環境教育機能

2. これからの緑の取組 [2024-2028] (素案)

2-1 方向性

2009～ 横浜みどりアップ計画

緑の保全・創出を強力に推進
× 高まる身近な緑へのニーズ

<これからの緑の取組[2024-2028]（素案）の方向性>

1. 緑豊かな横浜の環境を次世代に引き継ぎ、魅力的なまちづくりにつなげていくため、これまでの基本的な枠組みや主な取組は継承
2. 緑のもつ多様な機能を効果的に発揮させるよう、保全・創出した緑の良好な育成、活用を推進
3. 市民・企業が緑の魅力を実感できるきっかけを広げ、緑との関わりにつなげる取組を強化

GREEN×EXPO 2027(2027年国際園芸博覧会)

「幸せを創る明日の風景」

自然との調和 緑や農による共存
新産業の創出 連携による解決



▲会場全体イメージ
(公財)2027年国際園芸博覧会協会提供

横浜市水と緑の基本計画 目標像

「多様なライフスタイルを実現できる
水・緑豊かな都市環境」

<取組の理念>

みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

<5か年の目標>

- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます
- 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

取組の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

+

効果的な広報の展開

2-3 取組の進め方 本編P.10

3つの柱の取組を一体的に推進しながら、保全・創出した緑を効果的に活用し、多様な主体との連携を一層広げ、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を目指していきます



取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な役割や機能が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します

5か年の取組のポイント

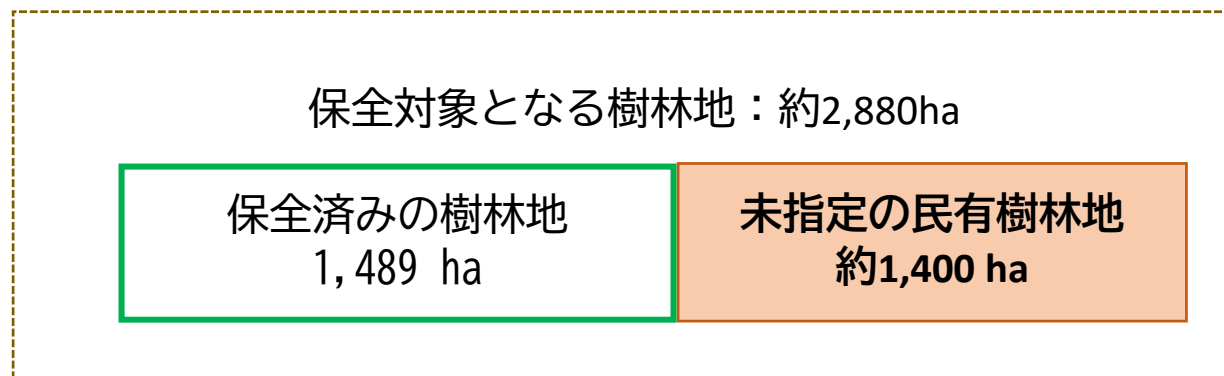
- ・ 180haの樹林地を新規指定し、買入れ申し出に着実に対応
- ・ 樹林地が持つ多様な機能が発揮できるよう、良好な森づくりを推進
- ・ 指定された樹林地の維持管理負担を軽減するための支援を拡充
- ・ 様々なかたちで森を楽しむことができる多様な活用を推進



2-4 取組の主な内容<柱1> 本編P.15-17

【主な内容 1～5】

1. 樹林地の緑地保全制度による新規指定面積は5か年で180haを目標
(現計画：300ha)
2. 樹林地の買取り想定量は5か年で100ha (現計画：113ha)
3. 良好な森の育成と推進 (市有樹林地：900ha 公園樹林地：300ha) **拡充**
(現計画：市有樹林地：800ha 公園樹林地：200ha)
4. 民有樹林地維持管理助成の充実 **750件** (現計画500件) **拡充**



▲保全対象の未指定民有樹林地の総量 (2019年度末時点)

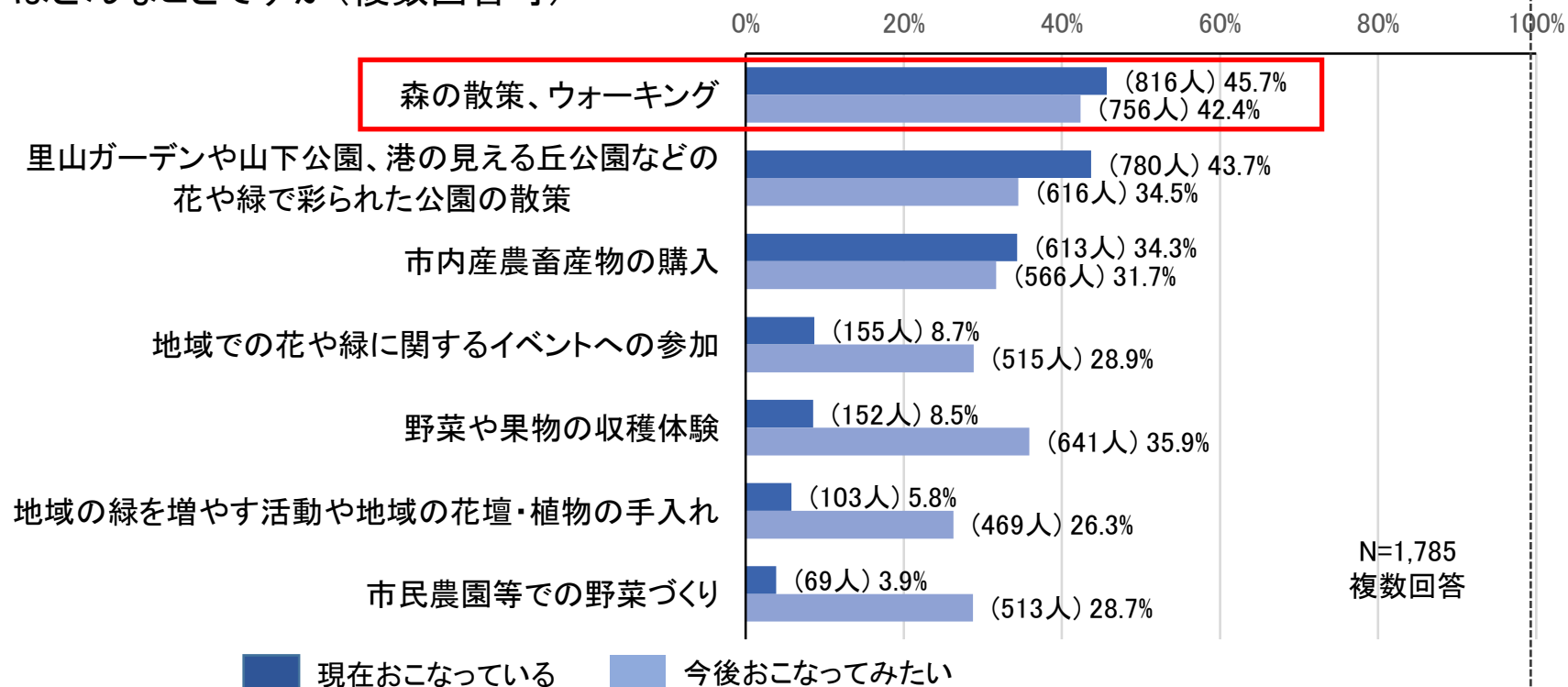
【主な内容 1～5】

5. 森の多様な活用の推進 **新規拡充**

→ 市民の森の開園 5か所

周辺施設や地域のニーズ、個々の樹林地の特性を踏まえた多様な森の利活用を推進

問 森や農、街なかの緑や花について、現在おこなっていること、今後おこなってみたいことはどんなことですか(複数回答可)



取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します

5か年の取組のポイント

- ・ 多様な機能を有する水田の継続的な保全を支援
- ・ 都心部から郊外部まで、農とふれあう機会の全市的な展開を推進
- ・ 地産地消を広げる、市民や企業と連携した取組の充実



2-4 取組の主な内容<柱2> 本編P.25-26、P.30-31

【主な内容 1～3】

1. 保全された水田の維持管理に対する支援を新規拡充 **新規拡充**

→ 水田耕作に必要な機械や設備等の導入支援

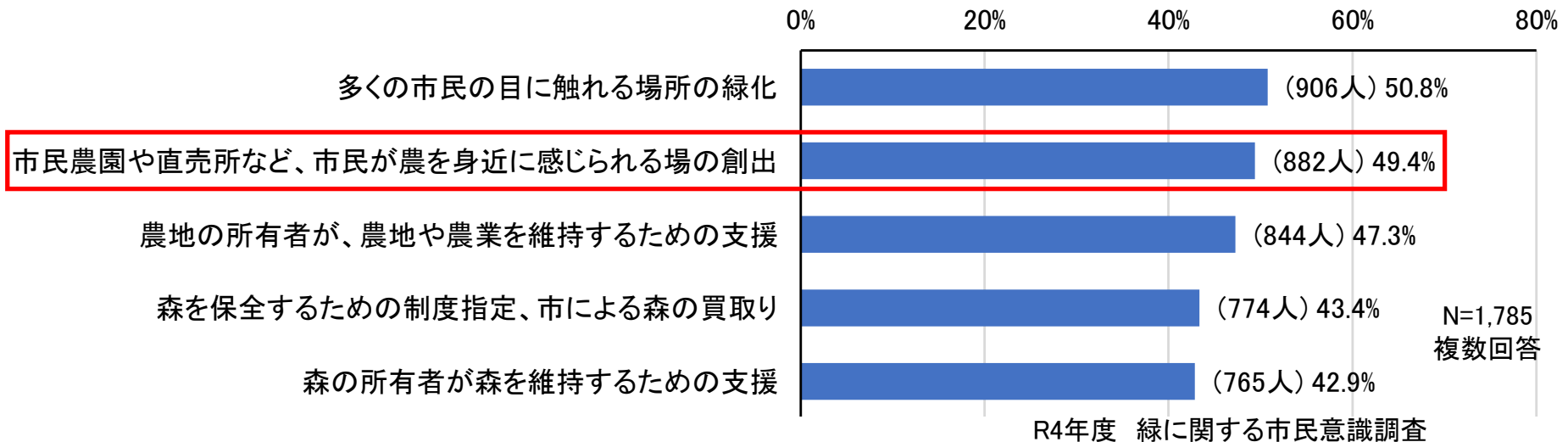
2. 農体験を広げる取組の拡充 **拡充**

→ 農地の少ない都心部において、公園内に農園を開設
専門知識やスキルを有するコーディネーターを派遣

3. 市民等による主体的な地産地消の活動支援を拡充 **拡充**

→ はまふうどコンシェルジュやよこはま地産地消サポート店によるイベント
開催など、主体的な地産地消の活動を支援

問 横浜市は緑や花に関わる取組として、何をすべきだと思いますか（複数回答可）



取組の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出に取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します

5か年の取組のポイント

- ・ 地域が主体となった地域緑のまちづくりや地域に根差した各区での取組を推進
- ・ 子どもが多く時間を過ごす場での緑を創出する取組を推進
- ・ 多くの市民が訪れる場所で緑や花による空間づくりを集中的に展開
- ・ 国際園芸博覧会を見据え、これらの取組を総合的に展開



2-4 取組の主な内容<柱3> 本編P.36-37、P40

【主な内容 1～3】

1. 市民が身近な緑を更に実感できるように、緑の創出に関する事業を展開

→ 区への支援を統合・充実させることで地域の緑化事業の活性化を図る

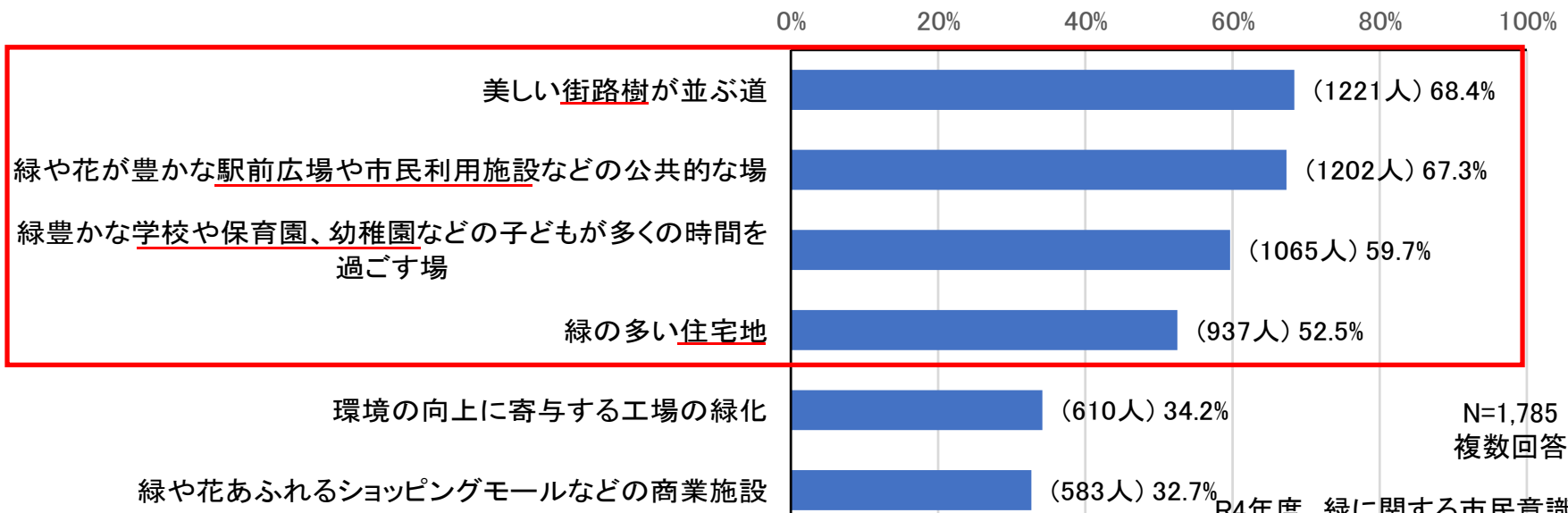
2. 地域緑のまちづくり 計画期間終了後の支援を拡充 **拡充**

→ 計画期間が終了した地区についてもアドバイザー派遣等の継続支援を実施

3. GREEN×EXPO 2027(2027年国際園芸博覧会)の機運醸成とその先のシティプライドにつながる取組の推進

→ 地域で展開されている様々な取組をガーデンネックレスでつないで機運醸成し、ガーデンシティ横浜の推進につなげる

問 横浜の街なかにどのような緑や花の空間があったら良いと思いますか (複数回答可)



効果的な広報の展開

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動の参加につながるよう、世代に応じた多様な広報を展開します。

【主な内容】

① 計画の認知を高め、参画につなげていく広報を展開

みどりアップを
楽しもう

イベント・体験のスポットの紹介



森にふれる



農にふれる



緑や花にふれる

散策できる森や野菜の収穫体験、
緑や花にふれるイベントなどを紹介

みどりアップを
実感しよう

美しい横浜の緑や花、
キャラクターによる動画配信



美しい横浜の緑や花、アニメーション
などの動画を配信

これからの緑の取組[2024-2028]（素案）の総事業費：430～450億円

3. 横浜都市農業推進プラン 2024-2028（素案）

3-1 方向性

2014～ 横浜都市農業推進プラン



<横浜都市農業推進プラン2024-2028（素案）の方向性>

- 「横浜都市農業推進プラン2019-2023」の理念、基本的な枠組みは継承し、主な取組は引き続き推進します。
- 生産者、事業者及び市民と連携を深め、さらなる横浜農場の展開を図ります。



<取組の理念>

活力ある都市農業を未来へ

<おおむね10年後の目標>

- 目標1 市内の各農業地域の特性を十分に生かし、新たな技術を積極的に取り入れ、新規就農者も含め意欲ある農家により元気な横浜の農業が展開されています
- 目標2 良好な農景観の形成や生物多様性の保全にも寄与する、まとまりのある優良な農地が形成されています
- 目標3 市民が農に関わる機会が市内全域で増えるとともに、地産地消が進んでいます

取組の柱1 持続できる都市農業を推進する

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

取組の柱1 持続できる都市農業を推進する

農業生産基盤整備の支援や生産振興を図るとともに、多様な担い手の確保や支援により、将来にわたり持続可能な都市農業を推進する取組を展開します。

5か年の取組のポイント

- ・ スマート農業技術の導入や生産者団体への支援
- ・ 農業生産基盤整備の支援
- ・ 中心的な担い手や新規就農者への支援
- ・ 旧上瀬谷通信施設における農業振興



【主な内容 1～3】

1.市内産農畜産物の生産振興 **拡充**

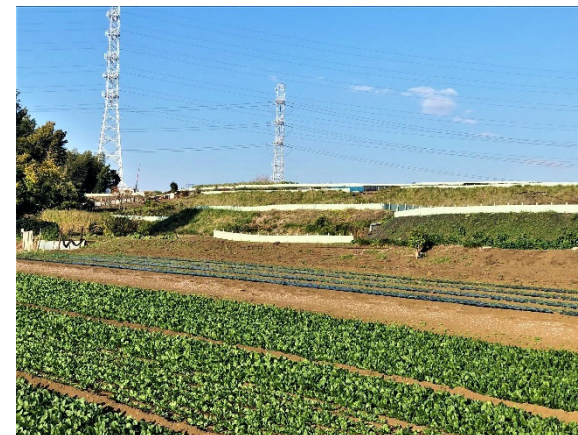
→ 生産者団体が共同で使用する農業用機械やICTやロボット技術などを利用したスマート農業技術の導入を支援

2.多様な担い手に対する支援 **拡充**

→ 認定農業者等、意欲的に農業に取り組む担い手への支援や農業後継者の就農、農業以外の他産業からの個人・法人の参入などを支援

3.地域特性を生かした都市農業の推進 **拡充**

→ 旧上瀬谷通信施設において新たに行われるまちづくりを契機に、畑地かんがい施設等の整備を実施



取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します

5か年の取組のポイント

- ・ 多様な機能を有する水田の継続的な保全を支援
- ・ 都心部から郊外部まで、農とふれあう機会の全市的な展開を推進
- ・ 地産地消を広げる、市民や企業と連携した取組の充実



※ 取組の柱2については、「これからの緑の取組[2024-2028]（素案）」にも位置付けています

3-3 取組の主な内容<柱2> 本編P.35-42

【主な内容 1～3】

1. 保全された水田の維持管理に対する支援を新規拡充 **新規拡充**

→ 水田耕作に必要な機械や設備等の導入支援

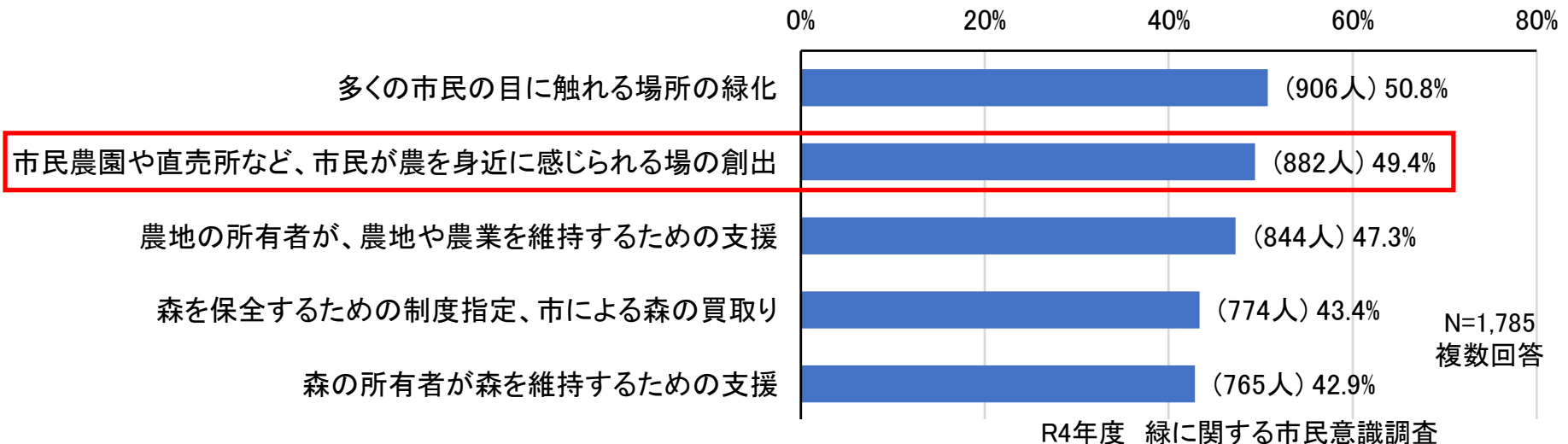
2. 農体験を広げる取組の拡充 **拡充**

→ 農地の少ない都心部において、公園内に農園を開設
専門知識やスキルを有するコーディネーターを派遣

3. 市民等による主体的な地産地消の活動支援を拡充 **拡充**

→ はまふうどコンシェルジュやよこはま地産地消サポート店によるイベント
開催など、主体的な地産地消の活動を支援

問 横浜市は緑や花に関わる取組として、何をすべきだと思いますか（複数回答可）



(参考) 今後の予定

本日

2023年3月 第31回 環境創造審議会
素案 (報告)

2023年5月以降
これからの緑の取組 [2024-2028]
(原案) 策定

2023年4月-5月
素案に対する市民意見募集の実施

2023年9月以降
横浜都市農業推進プラン 2024-2028
(原案) 策定

2024年4月 (予定) 計画スタート